

令和4年度第3回 東京都商品等安全対策協議会
議事録

令和5年1月25日(水)

都庁第一本庁舎42階 特別会議室B

午後 1 時 31 分開会

○折原課長 定刻になりましたので、ただいまから令和 4 年度第 3 回東京都商品等安全対策協議会を開会いたします。

事務局を務めます生活安全課長の折原です。

委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、本協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日も前回に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策などのため、オンラインによるご出席を基本に実施いたします。何とぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最初に、オンラインの操作について説明させていただきます。雑音やハウリング防止のため、ご発言される時以外はマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。また、カメラについて可能であればオンをお願いいたします。また、音やカメラについて不具合が生じた際には、一旦会議から退出して、再入室を試みていただければと存じます。再入室しても改善されない場合には、あらかじめお伝えしております緊急用携帯の電話番号にご連絡をお願いします。

それでは、まず今回の協議会の出欠状況です。

本日は全員ご参加いただいております。

続きまして、事前にお送りした会議資料を確認させていただきます。お手元にご用意ください。

最初に、会議次第になります。

委員等名簿、事務局職員名簿。資料 1、第 2 回協議会意見等への対応。資料 2、東京都説明資料。資料 3、過去テーマに関する取組状業についてでございます。

以上となります。よろしいでしょうか。

それでは、続けさせていただきます。

なお、本協議会は公開とさせていただきます。

冒頭、事務局からは以上です。

それでは、ここからは西田会長に進行をお願いいたします。

○西田会長 ありがとうございます。

それでは、会議次第に従って進行したいと思います。おおむね 15 時には終了いたしますので、議事進行にご協力よろしくお願いいたします。

これより、議事 1 に入りたいと思います。今回の協議会が最後になりますので、でき上が

りましたプラットフォームを確認していきたいと思います。事前に、前回の協議会ご意見などを反映し、改良したプラットフォームを見ていただきますが、改めて事務局からご説明をお願いします。

○松田統括課長代理 生活安全課の松田です。資料画面を共有しながら進めていきます。

それでは、これまで2回の協議会を経て、皆様のご意見などを受けて改良しましたプラットフォームを見ていただきます。既に委員の皆様には、プラットフォームのURLをお示ししておりますが、改めて構築主体のSafe Kids Japanの太田様と実際に作成を担当されています芝様に、このプラットフォームの構成などについてご説明していただきます。

それでは、よろしくをお願いします。

○太田氏 ご紹介ありがとうございます。Safe Kids Japanの太田でございます。よろしくお願ひいたします。

では、芝さん画面の共有をお願いいたします。

○芝氏 はい、しばらくお待ちください。

○太田氏 先生方ご覧いただいていますでしょうか。既に東京都様のほうから、先生方のほうに作り直したプラットフォームのURLが送られているかと思いますが、改めてこちらで共有させていただきながら、どんなところを改良したかについて、ご説明をしたいと思います。

今年度第1回、第2回におきまして、先生方から貴重なご意見、ご感想等々をいただきまして誠にありがとうございました。先生方のご意見を極力反映させていただいた形になっています。

変更点は、大きく分けて三つございます。

一つ目は、このプラットフォームの目的ですとか、何を目指しているのか、それがよく分からないというご意見をいただきました。

このプラットフォームの一番大きな目的は、消費者ですとか保護者の皆様から声を伺って、それを事業者の方、行政の皆さんにお伝えし、子供を取り巻く製品ですとか、環境を変えること、それから、法令ですとか、規格を変えることによって、子供のけがを減らすということが一番大きな目的です。

ですので、トップページにその目的を表す図を入れました。ちょっとスクロールして、こちらですね。これがその概念図になります。

また、プラットフォームの名称を「こどものけがを減らすためにみんなをつなぐプラットフォーム Safe Kids」というふうに決めました。実は、2017年にも東京都の皆さんとご一緒に「Safe Kids- 子供を事故から守るために -」という冊子を作っているんですね。今回のプラットフォーム事業は、その後継事業という位置づけでもありますので、Safe Kidsという名称はそのまま残させていただいた次第です。これが一つ目ですね。

二つ目は、先生方から、消費者の声を聞く、事業者の声を聞くというのはいいけれども、そう言いながら、どうやってその声を聞くのか。その仕組みが分かりにくいというようなご意見を多数いただきました。

そこで、「みんなの声」として、三つの入り口を設けております。投稿する入り口と、それから、投稿された内容を見る場所、こちら、投稿はこちらから投稿していただき、投稿された内容は「投稿を見る」を押していただきますと、その内容を見ることができます。例えば、この子供を育てている方からというところ、「みんなの声」のこの子供を育てている方からというところから投稿していただきますと、その流れなんです、一旦 Safe Kids の事務局でその内容をお預かりいたします。こちらで内容を確認しまして、場合によっては、より詳細な情報をいただくために、投稿された方にご連絡をすることもございます。

ここにございますように、ご連絡をいただきます個人情報、メールアドレスだけです。ですので、その方がどこにお住まいなのかとか、お名前は何という方なのか等々は、必ずしも収集はしておりません。

その内容をいただきまして、例えば、そのけがが製品に起因する内容であれば、その製品を製造されたメーカーさんに情報を伝え、法令などに起因するものであれば、担当部局に連絡をし、どうすればこういったことを、こういったけがを防ぐことができるのかということをそれぞれ検討いたします。

そして、何らかの具体的な予防策、例えば製品の改良ですとか、新しい製品の開発といったことにつながる可能性がある場合は、その経緯も含めて、この投稿された内容を見るというところで公開をいたします。

これは、第一報、第二報というような、継続的な取組になる可能性もあるのではないかと考えております。

一方、せっかく情報をお寄せいただいて、当該企業様、当該担当部局様と調整をしたんだ

けれども、すぐすぐ対応はできないというケースも当然あるかと思いますが。そのような場合は、率直にそれをお伝えし、それでは、改善がされるまで消費者の皆さんには何をさせていただくのかということを具体的にお示しするという形になろうかと思っています。

また、今までに先生方からもいろいろご質問をいただきましたが、この「みんなの声」は、どなたでもご投稿いただくことができますし、先ほども申しましたように必ず収集するのは、子供を育てている方からつまり、一般の方については、メールアドレスだけですので、お気軽に投稿していただくということをお願いしたいと思っています。

一方、医療機関や研究機関から、あるいは事業者の方からというところは、もう少し詳しい情報をいただきたいと考えておまして、いずれの場合も、画像ですとか、動画ですとか、そういったものも投稿できるように今、芝さんのチームでつくっていただいているところです。

これが二つ目の大きな変更点でした。

三つ目なんですが、このように消費者の声を聞く、そして、それを企業や行政に伝えるということは分かるんだけど、実際にこのプラットフォームを見に来る方、一般の保護者の方の目的、ニーズとして一番大きいのは、じゃあ、うちの子がけがをしないようにするにはどうしたらいいのか、それを知りたいということであろうと思います。

それは、一つは、先ほどご紹介した「みんなの声」の「投稿を見る」を見ていただくということも一つなんですけれども、それは、まだまだ数が少ないと思いますので、一般的な予防策ということについては、SNSを活用して紹介していきたいと考えております。

既に、1月9日から投稿を開始しているんですけども、使っているSNSは、インスタグラムと、もう一つはツイッターです。インスタグラムとツイッターは、少し役割が異なるようですので、基本的にはインスタグラムを中心とし、それに付随するといいますか、追加する情報としてツイッターを使うというような役割でやっております。

こちらは、現在マーケティングの会社の方をお願いをしておまして、投稿内容を作成していただいています。今までの協議会でも何度か出てきた「5人の方をお願いしているんです」というのは、このSNSの投稿をつくっていただいているのが今5人の方ですということで、これは一般の方が投稿していただく「みんなの声」とは、ちょっと別物になります。

現状としては、こちらから、まずテーマをマーケティングの会社のほうに送ります。例えば、今ですと節分の前ですので、節分の豆に関する情報を提供し、実際に過去にこんなけががあった。死亡した事例もあるというようなこと、それから、節分の豆を代表とする乾いた

豆、クルミとかナッツとかも含むんですけれども、そういったものによる誤嚥ですとか、窒息を防ぐためにはどうしたらいいのかということをも具体的にお示しするという内容の投稿をつくっていただきまして、それを私たちのほうで一旦投稿内容を確認し、その上で投稿という形になります。

また、今ご覧いただいている「子育て世代は絶対にやって！ロールスクリーンチェーン対策」というのは、いわゆるリポストといわれる機能を使ったものでして、こちらでつくったものではなく、既に別の方がつくって投稿されている内容を事前にその方の許可をいただいた上で紹介するという仕組みになります。これも内容を精査しまして、事故に関する投稿はたくさんあるんですけれども、内容が間違っているものですか、漠然とした注意しましょうとか、気をつけましょうといったメッセージのものは、極力避けて、具体的な要望策が示されているものを選んでリポストという形でさせていただいております。

では、その延長線上に、今度は安全に配慮した製品を購入するにはどうしたらいいかということがもう一つの課題としてありました。この点については、私どももかなり試行錯誤しまして、Amazonのページに飛ばすとか、そういったショッピングモールに飛ばすというようなことも考えたんですけれども、やはりこのプラットフォームでは、安全性の高い製品だけをセレクトして紹介していくということの大原則がありますので、キッズデザイン協議会様にご協力をいただきまして、受賞作品紹介ページにリンクを貼らせていただくというところで落ち着いたと、決着したというか、結論を出したということです。今ちょっと詳細はこちらを押しても飛ばないんですけれども、公開時には、それぞれのページ、キッズデザイン協議会、キッズデザイン賞受賞作品の掲載ページにリンクが飛ばせるというような仕組みになっています。

ほかにも、例えば、安全な玩具についているSTマークですとか、安全な製品についているSGマーク等々のついてる製品の中で、ぜひ一般の方に紹介したいという製品があれば、随時こちらに追加していくことを考えております。

私のほうから、大きく三つに分けた変更点は以上なんですが、芝さんのほうでもし追加があればお願いいたします。

○芝氏 前回の協議会でSEO対策についてアドバイスをいただいたかと思います。私そのときに、最近の検索エンジンは、非常に能力が上がっていて、文字はできるだけ埋め込まなければ問題なく検索エンジンに引っかかるというようなコメントをさせていただいたんですけれども、ちょっと補足させていただきますと、基本的に大きな流れはそういう方向な

んですけれども、今回のE d i t o r Xというシステムの中でも、S E O対策の方法が幾つか用意されていますので、そちらを公開時には設定をする予定にしております。ですから、全くS E O対策をしないというわけではなくて、可能な限りのことはさせていただきますので、どうかご安心くださいと。この点だけちょっと追加させていただきたいと思います。

以上です。

○太田氏 芝さん、ありがとうございました。

私も1点思い出したんですけれども、プッシュ型通知が必要だというご意見、ご指導をいただきました。以前は、メールによる情報が更新されましたというようなプッシュ型通知が主流だったと思うんですけれども、マーケティング会社の方によりますと、今あまりそれは特に若い世代の方には向いていなくて、とにかくインスタとかツイッターが更新されると通知が行くようにするために、まずフォローしていただくことが重要です、と。インスタをフォローしていただく。ツイッターをフォローしていただくということがまず重要だというようなお話でしたので、あの手この手でツイッターとインスタのフォロワーを増やすということをまずやっていきたいと思っています。

手始めに、この忍者と鳥と犬、この三人のキャラクターがいるんですが、この子たちまだお名前がついていないんですね。それで公開されましたら、この子たちのお名前募集キャンペーンというのを実施しようと思っていまして、ただ、お名前募集だとやはりなかなか集まらないそうなので、賞品をつけます。その賞品も500円、1,000円だと、なかなか応募がないということなので、1等は、もちろん三つのお名前が選ばれた人の中から抽せんでお一人の方にグランプリとしてAmazonギフト券30,000円分を差し上げると。そのほかには、応募して下さった方の中からやはり抽せんで10人の方にそれぞれ3000円分のAmazonギフト券を差し上げるというような形でキャンペーンを展開する予定です。Amazonギフト券は、URLで発行できるそうなので、メールアドレスさえ教えていただければ、ギフト券が当選した方には、そのギフト券のURLが送られるということになっていますので、先生方もぜひご応募お願いいたします。

このプラットフォームについては、本日の協議会でいただきましたご意見をさらに反映させて、2月中の公開ということになっております。この作業をずっと私もしてきたわけなんですけれども、これをずっと続けていますと、どうしてもこの協議会、それから2月の公開がゴールという気持ちでずっとやってきてしまったんですけれども、よく考えてみますと、それはゴールではなく、実はスタートなんですよね。このプラットフォームが公開されて、多

くの方に見ていただいて、どんなふうに成長していくのだろうということは、私自身も楽しみです。

公開時のURLは、現在のURLとは、また違ったものになるそうですので、改めて東京都の皆様方から先生方には新しい公開時のURLのお知らせがあると思いますので、ぜひ先生方引き続きご覧いただきまして、今後ともご指導をよろしくお願ひしたいと思ひます。

そして、先生方も、それぞれ一般の方でもあるし、医療機関、研究機関でもあるし、あるいは事業者でもあると思ひますので、みんなの声からぜひ先生方も投稿していただいて、このプラットフォームが活発に動くように、引き続きご協力をいただけますと大変幸ひでございます。

私からは以上です。ありがとうございました。

○松田統括課長代理 太田様、芝様、ありがとうございました。

それでは、東京都のほうから追加でご説明いたします。

資料を共有させていただきます。

資料1につきましては、太田様、芝様からもありましたが、第2回協議会での委員の皆様のご意見をプラットフォームに反映させておりますので、参考までおつけしております。

それでは、資料2のほうをご覧ください。

これまでのプラットフォームから強化しました事業者、このプラットフォームでは、応援企業と言っておりますが、双方向での交流として、消費者、保護者の皆様からの事故情報等を生かした安全な製品開発や自主基準の制定に取り組みます。

これは、このプラットフォームの最大の目的でもあります。また、製品開発の一環としてモニター調査を実施いたします。モニターは一般で募集します。

それから、消費者へのPRとして、事業者の安全な製品や新製品の情報提供、安全な製品開発のために製品や特典を提供。事業者の製品開発・改良の取組を消費者向けコンテンツとして作成いたします。

これにより、消費者に安全な製品を認知してもらい、場合によっては購入につながります。裏面をご覧ください。

応援企業である事業者については、今年度中にSafe Kids Japan様から賛助会員、それからプロジェクト・パートナーに呼びかけて、50社程度入ってもらう予定です。

来年度につきましては、関係者に呼びかけて、50社程度の企業に入ってもらう予定です。

これからのスケジュールですが、本協議会の後、プラットフォームを最終確認し、場合によっては手直しをして確定をしております。そして2月中にプラットフォームを確定し、東京都は、公開のプレス発表を行う予定です。

また、Safe Kids Japan様は公開に備え、既に事業者への説明会や独自アカウントでのSNSの投稿など進めており、公開後もコンテンツ内容の充実を進めてまいります。

また、公開と同時に、忍者のキャラクター名募集を行います。

来年度も、引き続き、東京都はこのプラットフォームの運営の支援を続け、アクセス解析などを行います。また、Safe Kids Japan様は、プラットフォームで、事業者の説明会や製品モニター募集などを行います。

事務局からは以上となります。

○西田会長 ありがとうございます。

それでは、今年度の協議会は、今日で最後になりますので、プラットフォームに対する意見も含めて、協議会を通じてのご感想などについて、皆様から一言ずついただきたいと思っています。

名簿順でお願いしていこうと思うんですけども、最初に、それでは、釘宮委員からお願いできますでしょうか。よろしくお願いします。

○釘宮委員 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会の釘宮でございます。

ご説明ありがとうございます。修正等をしてくださいました、こちらのプラットフォームを拝見いたしまして、これから始まることに大変期待を寄せております。もしかすると、まだ、いろいろ修正すべきところはあるかもしれないとも思いますが、これまで指摘をさせていただいたことについては、反映をしてくださったと思います。

たとえ見切り発車のような形であったとしても、まずは始めてみる。そして、保護者や小さなお子さんの世話をしている方、そういう方にたくさん見ていただくということが、まずは大事かと思っておりますので、継続した取組というものをぜひ実践していただきたいと思っております。

利用者の方といいますか、小さな子供さんの世話をしている方たちから見てよかったとか、役立ったとか、ぜひそういう声を拾って、利用状況について定期的に検証していただきたいと思っております。それは、恐らくアクセスの分析だけでは少し足りないところもある。実際の声の拾っていくというところも大事だと思っておりますので、これから見てよか

った、役立ったという人たちを増やしていく努力をしていただければと思っております。

以上です。

○西田会長 ありがとうございます。

それでは、次、鈴木委員、よろしくをお願いします。

○鈴木委員 全国消費生活相談員協会、鈴木と申します。

今回、本当にポータルサイトを完成版的なものを何回も拝見させていただきまして、1回目、2回目の消費者の意見を反映していただいたと思っております、ありがとうございます。

最近は特に、情報収集の場は、スマートフォンに移行してきておりますので、サイトへのアクセスも容易になったのではないかなと思っております。

内容的には、別に異論はないんですけれども、まずは公開して、もし修正が必要な場合は、その都度対応していただけるものと思っております。

先ほど、太田様のほうも、ここがスタートだというお言葉をいただきましたので、その辺に期待をしたいと思っております。

本当に細かいことですが、お聞きしたい点が、内容の用語です。トップページから平仮名の「こども」に統一されていると思いますが、企業の中に入っていく中に、1か所だけが「こども」の「子」が漢字の「子」になっている。これが1点と、あと、トップページで一般の皆様へと平仮名になっているんですが、中に入っていくと、保護者の方、消費者の方、あと、皆さんが漢字になっていたり、どちらでもいいのかなと思うんですが、意図としてこのように用語を変えているのか、統一できるところは統一したほうがいいのかというふうに感じました。

生活者という言葉も出てきておまして、このプラットフォーム、目指す中のとても分かりやすかったんですが、ここでは生活者の皆様と出てきていますので、意図としてこの用語を使っていらっしゃるなら、別にすんなり頭に入っていけば大丈夫かなと思うんですが、その辺ちょっと気になったのでお聞きした次第です。

以上です。

○西田会長 鈴木委員、ありがとうございます。

今、細かいこの文字というか、表現のご指摘がありましたけど、この辺りは、精査して修正するところは修正するしということになりますかね。

○太田氏 そうですね。見落としているところが多々あると思います。ご指摘いただいてあ

りがとうございました。

○西田会長 引き続きよろしく申し上げます。

それでは、続きまして、菱田委員、よろしく申し上げます。

○菱田委員 国民生活センターの菱田と申します。

ご説明、ありがとうございました。また、いろいろとご対応くださいますと、非常にいいという印象を持っております。

公開となった場合、恐らく東京都のほうでプレス発表があると思いますので、ぜひともその機会利用して、まずは知っていただくということが非常に大事なかなというふうに思います。

その際、東京都のプレス発表用紙の中のURL、リンクで飛ぶというのもいいかもしれませんが、QRコードなど、アクセスしやすい形を取っていただいたほうがいいかなというふうに思いました。

それと、運用につきましては、これからどうなっていくか、いろいろな情報が追加されて、変わっていくと思いますので、非常に悩ましい部分もあるかもしれませんが、ぜひともファンを獲得し続けていっていただきたいなというふうに思いました。

また、事故が起こりますと、恐らくこちらのサイトをご覧になって、取材等があると思いますので、ぜひともそういったときには積極的にご協力をされて、サイトの周知度を上げていっていただければというふうに思います。

以上でございます。

○西田会長 ありがとうございました。

それでは、次、山根委員、よろしく申し上げます。

○山根委員 東京消防庁の山根と申します。

本日いろいろご説明いただきまして、ありがとうございます。

このプラットフォームが活性化し、消費者、事業者、さらに研究者等の皆様が活発に意見交換、情報交換等をして、安全な製品開発や、安全な取扱いについて広く行き渡り、事故が1件でも減ることを願っております。

東京消防庁管内では、18歳未満の子供が日常生活での事故により、年間で約1万5,000人が救急搬送されています。個々の消費者の方からのヒヤリ・ハットや事故の投稿といった貴重なご意見に、さらに我々の救急搬送データを加えることでより充実した内容になると思います。必要に応じて依頼していただければ、データの提供等協力させていただきます。

きますので、今後ともよろしく願いいたします。

○西田会長 山根委員、ありがとうございました。

それでは、次、安藤特別委員、よろしく願いします。

○安藤特別委員 SOMPOリスクマネジメント安藤と申します。よろしく願いいたします。

まずは、ご説明いただきましてありがとうございます。送られてきたプラットフォームを見させていただいて、まず率直に思ったのは、非常にいいなと思いました。これは、私も小さい子供が二人いますが、子供がいる父親という目線で見ても、投稿されている内容がどこにあるのかや、その内容がどうなっているのかなど、非常に読みやすいフォームになっていると感じました。人にも紹介でき、有用に使ってもらえると率直に思いました。

恥ずかしながら、幼児にはトマトを切ってあげなきゃいけないなど、製品安全では誤飲リスクという観点で当たり前のことではありますが、たしか食品でもあるなということの気づきになるということもありました。そういう観点でも消費者に対して使えるツールになっていると思っております。

プラットフォームのフォーマット自体については、あまり意見はないですが、運用面に関して、多少コメントがありますので、今後の参考にしていただければと思います。

まず1個目、これは確認も含めてですが、投稿内容については、「投稿する」というボタンが押されたら、その内容を精査し、いいものであれば載せていくという流れになると思います。一方で、投稿された内容に対してコメント欄というのもあります。既に検討済みかもしれませんが、このコメント欄に関する精査についても、どうやって運用していくかを検討されたほうがいいと思いました。例えば、某大手のプラットフォームではおかしな内容を書いてあるとその掲載を止めるなどを実行しております。

二つ目が、何か投稿した後に精査が入ることになるため、「投稿する」を押してもすぐにプラットフォームに入らず、恐らく多少時間のタイムラグが出ると思います。このため、「送信する」の真下か、もしくは送信後に「送信ありがとうございます」と、「事務局で、まず内容を掲載するか検討させていただきます」「掲載に時間がかかる場合があります」などの注意書きが必要と考えます。また、企業案件は特にですが、安全な新製品ができましたというものなどに対しては、連絡を入れて確認が必要になることがあるかもしれないので、「連絡が入る可能性があります」などの補足が必要かと考えます。こちらも既にやられているかもしれませんが、ご検討いただければと思います。

次が、今回「商品等安全対策協議会」という名前なので、どうしても、プラットフォームは製品の安全性に関わる内容を主にするのかな？という目で見えてしまっていました。ただ中身を見ると、製品も含めて子供の安全全般に対して掲載するというのがコンセプトであると認識しました。

とはいえ、子供の事故は本当に色々な種類があると思うので、事前にどこまでの内容をターゲットとして投稿を載せるかというところは検討しておいたほうが良いと思いました。例えば、交通事故の内容が入ってきたらどうするのかや、雪道で転んだ（もしかしたら靴の安全という観点で事業者が反応するかもしれません）、池に落ちた、子供同士のけんか、連れ去り事件が起こったなど、いくつか「ちょっと違うな」と思われるような内容もあるかもしれません。ただし、それが間接的に製品の安全、企業からの対策案件になる可能性もあると考えるため、その辺りは事前に幾つか事案をピックアップ、カテゴライズし、仮に投稿された場合に、どこまでを精査するかというところは事前検討があったほうが良いと考えました。

最後に、これは要望的な側面もありますが、トマトの例題を載せられていたときに、内閣府のガイドラインがS a f e K i d s 側の見解として掲載されていました。このような場合は、そのガイドラインのリンクなどを添付して欲しいと思いました。こういうものがあると、より理解として深まるため、このような改善案がある場合には、できるだけリンクを飛ばせるような運用をされると良いと考えます。

ちょっと長くなりましたが、以上になります。

○西田会長 安藤特別委員、ありがとうございました。

非常に細かく、具体的なコメントとか、運用面でのアドバイスをいただいて、非常に参考になります。

それでは、次、植松特別委員、よろしくお願いします。

○植松特別委員 よろしく申し上げます。

URL がなく、プラットフォームが見られていないのですが、皆様のご意見を聞いていて、そうだなというところが多かったので、それに関しては本当に準備と新しい世代への投げかけと新しいツールというか、もう新しくないのかもしれないんですけど、そういうものの準備がここまで東京都と一緒にされたということで、非常にいい試みというか、新しい試みで本当に期待できるなというふうに感じております。ありがとうございます。

二つ目としては、やはりいろんなご意見があるんですけども、委員の方にも入ってい

っしやる、例えば国民生活センターとか、それから東京消防庁、消費者庁とか、それから経産省、こども庁、そういったところと今後どういうふうにこのプラットフォームがリンクしていくとか、協働していけるかという点、展望みたいなのが気になります。やはりこういうデータベースは今いっぱいできつつあるところで、これの集まってきたデータをどういうふう集約をむしろしていくかということまで興味があります。今後このいろんな運用を続けていく上でも、また参考にさせていただいたり、勉強させていただければなというふうに感じました。大きな意見では無いですけども以上になります。

○西田会長 植松特別委員、ありがとうございました。

それでは、次、浦野特別委員、よろしくお願いします。

○浦野特別委員 With未来研究所、浦野です。よろしくお願いします。

ホームページを拝見しまして、大変ありがとうございます。これまでお伝えした意見等が反映されて大分がらっと変わったこと、画像をたくさんインスタ的な形で挙げていただいたことで、もっともっと見てみたいと思わせるつくりになったと思います。こうしたことが見る人たちの心をしっかりつかむと思うので、すごく大きなステップアップ、レベルアップしたなと拝見いたしました。

これまでお伝えしてきたことの反映はされているんですけど、もうワンプッシュしてほしいなという点をお伝えしたいと思います。

一つ目は、東京都さんとかと、こちらのSafe Kidsの関係性が分からないとお伝えしていた点について、「東京都」が下のほうに支援機関として記載されることで、非常に分かりやすく明確になってよかったと思っています。逆に、そうすると、東京都ではないところがやっている。じゃあ、これってどこなのと、見る人は、それがどういう主体なのか、信頼できる主体から発信なのか。特に自分の情報を提供するとなると、ますます信頼できるところじゃないと提供する気にはならないと思うので、そこを担保する仕組み、情報が必要だなと思いました。

具体的には、最初のプラットフォームの四つのこういう図の説明書きに、「Safe Kidsは×××のプラットフォームです」と書かれているんですけども、そこにSafe Kids Japanが運営するプラットフォームですと、まず主語を書いた、主語とか主体を書いてあげる必要があると思います。

その上で、Safe Kids Japanというのは、こういうところですよという説明書やリンクがあって、こういうところがやっているんだという安心感を持った上で見て

いけるようにしてあげてほしいなと思いました。できればあの図は、幾つか並んで横に流れるものよりも上にあったほうがいい。私はウェブの専門家じゃないので分からないんですけど、まずそこが一番大事だなと思った次第です。

あとは、一番下のほうにいくと、東京都があり、日本財団があり、Safe Kids がありますが、そこはSafe Kids Japanさんのホームページにリンクしていただきたい。キッズデザイン協議会さんについても、ただのマーケティングをしているんじゃないで、信頼されるものを皆さんのためにやっている、そういう意匠があるんですと、きちんとした出所をそれぞれに書いて、とにかく信頼をしてもらおう工夫をもっともってほしいなと思いました。

長くて、すみません。二つ目。このプラットフォームのメインの目的は、情報の収集だだと思います。今回、それをすごく意識されてつくっていただいたかなと思って、いろいろご苦労を拝見したところなんですけど、でもやっぱり、これが情報収集するホームページだとは、すぐには分からないと思っています。例えば、プラットフォームの図で、消費者からプラットフォームに双方向の矢印になっていますが、それについて、情報提供という片矢印をあえて書いたり、モニター参加というのを書いたり、あと、情報をもらう逆矢印にする。さらには、消費者からの情報提供のほうを太い矢印にしてしまうとか、それぐらいでもいいのかなと思いました。

それで、保護者・消費者から提供された情報を踏まえて、自治体、国は、法律を改正したり、メーカーさんは商品開発をしたりなど、情報を提供することで何が起こるのかを、その図で分かるようにすると、じゃあ提供しようかなとなるのかなと。そこすごく大事な図だなと思いました。

同じく収集のための工夫として、細かい話ですが、「みんなの声」というのがありますけれども、「みんなの声」って、ぱっと見ると、「みんなの声」が読めるのかな、「みんなの声」を集めているのかなと、どっちにも取れます。すると、「みんなの声」が集まっているんだ、見に行こうといった発想しか湧かないので、ちょっとそこにも集めていますみたいなメッセージがあると、よりクリックできるかなと思いました。

さきほどと少しかぶりますけれども、集めた情報を公開しますとしか書かれていませんが、情報収集をしてそのまま公開する一般的なサイトとは違うよ、「対策に活かします、統計的にもいろんな情報として活用します」と、目的や活用方法もちゃんと書いて、とにかく収集することにもっと力を入れてほしいなと思いました。

すみません、大きくはそんな感じで、以前お願いしたことについて、すごく叶ってはいるんですけども、もう一工夫、二工夫お願いできればなと思います。

そして、これがどんどん広く使ってもらえるために広めることが重要です。第1回でも言ったんですが、子どもがけがをしたときに、その保護者さんがこのサイトを知らなくても、「こういうところに投稿したらいいわよ」と言ってくれる人、お医者さんとか、保育園の先生とか、そういったチャンネルにぜひ重点的にホームページの存在をお伝えしていただけるといいと思います。

すみません、長くなりました。以上です。期待しています。

○西田会長 浦野特別委員、ありがとうございました。

それでは、次、奥村特別委員、よろしくお願いします。

○奥村特別委員 キッズデザイン協議会、奥村です。お疲れさまです。

時間をかけて構築のところまで組み立てていただいて、ありがとうございます。

太田さんご自身も言われていましたし、ここから結構大変だと思いますけれど、運営面のほうをよろしくをお願いします。

先ほど安藤委員からもありましたが、投稿内容を精査する対応は、結構大変だと思います。私は以前、通販系 EC サイトの運営にかかわったことがあります。これの対応って、本当に毎日誰かが見て、誰かが判断をして、それをどう返していくのか、アップしていくのかというのが結構大変です。本当に活性化されればされるほど、運営が大変になってくると思いますので、最初のうちはそんなにたくさんはないと思いますけれど、その辺りの運営の手当というのは大変かと思うので、この後引き続きよろしく願いいたします。

あと、浦野委員にも触れていただきましたけれど、キッズデザイン協議会の紹介も確かにそうでしたね。こちらからも情報を提示できる部分とか、ロゴを掲載して関係を説明するところというのは、ちゃんど協力していきたいと思っています。

ただ、現状テストサイトの商品を購入するところの説明のされ方が、今はまだリンク先を貼られていませんでしたけれども、キッズデザイン賞を取った作品とほかにも云々という形で並んでいるので、混同されないようにだけはしていただきたいと思っています。STマーク、SGマーク、その他のマーク、取れているのかもしれないですけど、キッズデザイン賞受賞作品ではないものと、受賞作品のものが混在することのないよう注意していただきたいなと思っています。

あと、受賞作品も品名だけだと、よく分らないと思いますので、それを説明する方法を私

どもも考えたいと思います。

植松委員からもご指摘があったように、他サイトとの連携だとか、国民生活センターですとか、消防庁をはじめ、そういうところの連携も大事になってくると思っております。東京都として、「こどもスマイルムーブメント」が2021年にスタートするときも、参画表明する企業、団体さんを大々的に募っていましたが、それぞればらばらにまたやると大変だと思いますので、都の活動の中でも連携できるものがあれば、うまく連携していただけると効率はいいのかなと思っております。

いずれにしても、まだまだ大変なことが多いかと思いき、ここまで組み立てていただいて、ありがとうございます。

以上になります。

○西田会長 奥野特別委員、ありがとうございました。

それでは、鹿野特別委員、よろしく申し上げます。

○鹿野特別委員 製品評価技術基盤機構、通称n i t eの鹿野です。

今回この協議会に参加させていただいて、ありがとうございました。非常に期待ができるサイトができ上がってきたように思っております。

質問ですが、東京都の子育て支援のページには、今回のポータルサイトは載るのでしょうか。今回のポータルサイトは直接東京都の運営ではないですが、できれば、この東京都の子育て支援のページのほうにもリンクを貼っていただけるとよいと思います。「とうきょう子育てスイッチ」などのページが子育て支援のページにリンクされています。運営されている局が福祉保健局となっているので、違う局であるかもしれませんが、できればそこに載っていると、見る方も一つツールとして見に行きやすいのかなと思います。

もう一つ、製品評価技術基盤機構n i t eでも、製品事故の情報や注意喚起をホームページ等で発信させていただいておりますので、ぜひ機会をみつけて、こちらのポータルサイトにリンクを貼らせていただければなと思っております。その場合の窓口として、どちらにご連絡をさしあげればよいかについても教えていただければと思います。

以上、2点よろしくお願いたします。

○西田会長 鹿野特別委員、ありがとうございました。

ぜひセンテンス、ポータルサイトは進めていただきたいと思いき。よろしく申し上げます。

それでは、次、田崎特別委員、よろしく申し上げます。

○田崎特別委員 よろしくお願ひします。田崎です。

今回多くの意見があった中で、この短期間で何度も修正していただいて、大変だったと思うんですけども、全体的になぜこのプラットフォームが必要なのかですとか、使う人がどういうことができるのか、とても分かりやすくなったのではないかと感じております。

見せていただいて、これからがスタートだと言われたのですが、本当にそのとおりだと思いますので、改善しながらこのプラットフォームがどう育っていくのかがとても楽しみだなと思っています。

2月のリリースまで、もうあまり時間がないとは思いますが、一部気になった点と、もしかしたらエラーかなと思う箇所もありましたので、いくつかお伝えできればなと思います。

一つ目が、トップページの中で、プラットフォームの図の説明があり、ほかの方のご意見でもあったと思いますが、ここに出てくる登場人物の方たちが何をやり取りして、何を得ているかみたいなことが、矢印の中に記載があればいいなと感じました。

トップページのほかの部分ですが、忍者がいる Safe Kids というブロックの部分を押すと、コンセプトムービーと同じ箇所にスクロールがされていまして、ここはその挙動でいいのかなという確認をお願いしたいなと思います。忍者がいる Safe Kids という部分は、もしかしたら上部にあるプラットフォームの図の部分のかなと感じたので、その辺りご確認いただければと思います。

次に、「みんなの声」の部分ですが、「投稿を見る」を押しますと、今の時点では、ライブラリーに飛びますが、これはライブラリーが別カテゴリーになってしまうので、それでいいのか。今、仮にそう飛ぶのかというのもご確認いただければいいかなと思います。

あと、「みんなの声」とライブラリーに図のほうにはあった保育と教育の対象がなくなってしまったのですが、そこはなしでいいのかなというところが気になりました。恐らく専門家のところで、医療と一緒にのところになるのかなとも思いますが、図にもあったので、あったほうがいいのかという感じがしています。

次に、ライブラリーの箇所ですが、ライブラリーの詳細情報の中に入りますと、一個一個ブロックで情報が区切られていて分かりやすいのですが、全体的にどんな情報があるのかなというのが、網羅したいときに少し分かりにくいかなと思ったので、例えばタイトルだけが一覧で見られる箇所があるといいなと感じています。

次に、ライブラリーから詳細に入った中で、全ての記事ですとか、カテゴリーとあるのですが、それを押すと、対象者が混在した全ての情報になってしまって、何ができるか箇所な

のか分かりにくいなという印象がありました。入り口の部分では、子育てをしている人と専門家というふうに分かれていたのですが、全ての記事などを押すと、全部がまとまっていたので、ここは分かりにくいのかなという印象もありました。

次に、ライブラリーからも投稿できるようになっているのですが、それは、「みんなの声」でも投稿できて、ライブラリーでも投稿できるというのは、どっちがいいのかなと思うのですが、投稿と閲覧というのは分けたほうが分かりやすいのかなという印象も感じています。

こちらはエラーかなと思うところですが、ライブラリーの中で、マイポストを押したら、トップページのライブラリーの選択部分に戻ろうとすると、挙動がおかしくなってしまったので、そちらご確認いただければと思います。

もう一つエラーですが、企業の皆様へというページと、お問合せページで、アンダー画面に置くと、ほかは右からメニューが出てくるんですが、この二つのメニューが左からメニューが出てきてしまうので、こちらもしかしたらエラーなのかなと思いますので、ご確認いただければと思います。

細かい箇所になりましたが、以上となります。今回委員会に参加させていただき、どうもありがとうございました。私もとてもいい経験になったかなと思います。以上です。

○西田会長 田崎特別委員、ありがとうございました。

これで一通りご意見をいただきました。皆様ありがとうございました。

いろいろご意見をいただき、大変ありがとうございます。このプラットフォームですけれども、2月公開ということで、できるだけ早く公開する方向で進めていきたいと考えております。

S a f e K i d s J a p a n様及び事務局には、本日いただいたご意見も踏まえて、公開までにまだ少し大変かと思えますけど、プラットフォームをさらによりよいものに手直しを進めてください。ご尽力よろしく申し上げます。

○太田氏 かしこまりました。先生方、どうもありがとうございました。

○西田会長 それでは、続きまして、ここから別のトピックになりますけれども、過去テーマに関する取組状況についてです。これまで協議会で過去都に報告したテーマについても検証が必要とのご意見を踏まえて、過去テーマ、過去に扱った取組状況を事務局に取りまとめていただきました。事務局からご説明申し上げます。

○松田統括課長代理 それでは、資料3について報告いたします。

資料を共有させていただきます。

まず、1ページをご覧ください。

平成29年度テーマの「子供のベランダからの転落防止のための手すりの安全対策」について、報告します。

まず、事故状況として、東京消防庁の2019年から2021年までの12歳以下の救急搬送事例は27件あり、このうち中等症以上が18件でした。表1に傷病事例の詳細、図1に発生状況を示しています。

2ページをご覧ください。

次に、救急搬送件数の推移を示しており、近年は毎年10件前後発生しております。表に事例の一部を掲載しました。

3ページをご覧ください。

業界団体の取組と表3には、業界団体の一覧を示しております。

まず、(1)商品の安全対策、中高層住宅についてですが、①商品改善については、ベタリビングからご回答をいただいております。

②の安全配慮商品の普及につきましては、建築開口部協会、それから、リビングアメニティ協会からご回答をいただいております。

4ページに既に入っておりますが、③注意表記等の強化につきましては、建築開口部協会からご回答をいただいております。それから、日本アルミ手摺工業会からもご回答をいただいております。

次の低層住宅①の安全基準につきましては、安全基準の強化として、令和2年3月に低層住宅用バルコニー構成材及び手すりの構成材のJISが公示されております。

②安全配慮商品の普及につきましては、住宅生産団体連合会と日本エクステリア工業会からご回答をいただいております。

それから、③の注意表記等の強化につきましては、日本エクステリア工業会からご回答をいただいております。

5ページをご覧ください。

(2)消費者への普及啓発につきましては、建築開口部協会、それからリビングアメニティ協会、日本アルミ手摺工業会、日本エクステリア工業会から注意喚起の取組についてご回答をいただいております。

(3)情報収集と活用につきましては、日本アルミ手摺工業会、それから日本エクステリア工業会からご回答をいただいております。

6 ページをご覧ください。

(4) 課題としまして、日本アルミ手摺工業会からは、転落防止対策に関する市場のニーズが高まり、関係者の理解を得られないと、安全対策に積極的に取り組めない状況があるなどのご意見をいただいております。

それから、ベターリビングからは、消費者向けに住宅部品の事故防止や安全な使い方などの情報を、発信する企画を進めており、その中で、子供のベランダからの転落防止を扱う予定ですと、ご回答をいただいております。

建築開口部協会からは、発注者側を含めた、啓発活動の拡大や居住者がベランダなどに足がかりになる物を置かない意識を高める有効な方法についてご意見がございました。

(5) コロナ禍における人々の行動変容において、安全対策の推進への影響ですが、建築開口部協会から、コロナ感染拡大防止に注意をして、作業員同士の直接の接触機会を減らしているため、情報伝達不足にならないよう気をつけているとのこと。これは、一般の消費者というよりは、作業員の関係だと思えます。

それから、ベターリビングからは、子供の行動に親の目が届きやすくなる一方で、子供が窓際やバルコニーで遊ぶ機会が増えることが懸念されるというご意見がございました。

日本エクステリア工業会からは、ベランダがこれまで以上に活用されているとのこと。また、感染対策の換気で窓を開ける機会が増えて、出入り頻度も増えたと思われるとのこと。ご意見がございました。

7 ページをご覧ください。

東京都の取組としまして、ウェブサイトやSNSなどで消費者に対し、注意喚起を継続しており、子育て世代向けのイベントにおいて、事故情報の啓発リーフレットの配布を行っております。また、最近、春や秋の連休前などに、区市町村を通じて、改めて注意喚起を行いました。令和4年の秋に全国で事故が続いたことを受け、注意喚起を再度行うほか、関係各局による掲示や積極的な広報の展開、注意喚起用の動画を作成などに取り組みしました。

これから、作成をした動画を流しますので、見ていただければと思います。

(動画視聴)

○松田統括課長代理 今見ていただいた動画につきましては、東京都公式動画チャンネル東京動画でもご覧いただけます。

次に、平成29年度に協議会で行ったアンケートを基に、今回消費者に対し調査を行いましたので、その概要を報告いたします。

本調査は、一都三県に在住し、ベランダのある住居に、末子年齢が1歳から12歳の子供と同居する約2,000人に対してインターネットにて実施しました。

まず、ベランダの構造と使用実態ですが、ベランダのある住宅のタイプは、「戸建て住宅（持家）」が37.9%と最も多く、次いで「集合住宅（持家）」、「集合住宅（賃貸）」の順でした。

ベランダのある階数は、「2階」が45.6%と最も多く、次いで、「3階」が14.3%でした。最も多かった手すりの高さは「110cm以上130cm未満」が40.1%、奥行きが「90cm以上120cm未満」が24.5%でした。

使用用途は「洗濯物を干す」が84.%と最も多く、次いで、「布団を干す」、「ガーデニング」の順でした。

ベランダにあるものは「エアコンの室外機」が50.5%と最も多く、次いで、「物干し」や「プランター・植木鉢」が続きました。

ふだん出入口を「施錠している」のは57.5%、「子供の手の届かないところに補助錠をつけている」は15.6%でした。

子供のベランダからの転落やヒヤリ・ハットについてですが、「転落したことがある」、「転落しそうになったことがある」、「ヒヤリとした経験がある」を合計すると14.9%でした。

経験したときの住宅は、「集合住宅（賃貸）」が38.7%と最も多く、次いで「戸建て住宅（持家）」、「集合住宅（持家）」の順でした。

ベランダの階数は、「2階」が110人と最も多く、次いで「3階」が48人でした。

子供の行動で最も多かったのは、「手すり、柵、腰壁の上を乗り越えた、乗り越えそうになった」が31.3%でした。

経験したときの環境や状況で最も多かったのは、「子供が手すりや柵などで遊んでいた」が22.0%でした。

経験したとき、子供が出た方法は、「出入口の鍵を子供が開けて、子供だけで出た」が最も多く23%でした。

子供のそばにいた人は、「親」が最も多く72%でした。

原因で最も多かったのは、「保護者が子供から目を離してしまった」が60.7%でした。

事故や注意喚起の認知についてですが、半数以上は注意喚起を受けたり、手すりの注意喚起シールを見るなどの経験はありませんでした。

事故の認知度は92.6%でした。認知経路は、「テレビ、ラジオのニュース」が81.3%と最も高く、次いで「インターネットのニュース」が40.6%でした。

家庭内での事故防止対策は、「子供だけでベランダに出さない」が50%と最も多く、一方、「特に何もしていない」というのが15.9%ございました。

ベランダの安全性に対する意見・要望などについては、ベランダや出入口の形状改善、補助器具要望や保護者の注意・配慮の重視、いろいろな形の注意喚起・啓発を求める意見などが挙がりました。

以上、ベランダ転落についてでした。

次のページをご覧ください。

次に、令和2年度テーマの「防水スプレーの安全対策」について報告いたします。

まず、事故状況として2019年から2021年までの救命事故に関する東京消防庁の救急搬送は4件でした。危害程度は全て軽傷で、幅広い年齢で起こっていました。表4に内容を示しております。

また、厚生労働省は、毎年度吸入事故の報告件数を掲載しています。

なお、2020年度より、誤使用による事故を除外したため、大幅に件数が減少しています。件数の推移は図3になります。

11ページに入っております。

日本中毒情報センターは、定期的に、吸入事故の注意喚起をウェブサイト上で行っております。中毒110番への相談件数は、2020年で46件、2021年で40件でした。相談件数の推移を図4となります。

12ページをご覧ください。

業界団体等や販売事業者の取組状況について、ヒアリングした内容を記載しております。

(1) 商品の安全対策として、日本エアゾール協会は、会員企業に「防水スプレー等の吸入事故防止対策安全確認試験の継続的な確認のお願い」を送付しております。

また、受託している「エアゾール製品の輸入品検査」では、防水スプレーの安全確認試験の実績件数は、令和3年度で4件、令和4年度で12件になりました。

また、株式会社コロンプスは、噴霧粒子径、付着率の安全確認試験を行っている。必要に応じてSDSの提示も行っているとご回答がありました。

(2) 注意表記等の強化につきましては、コロンプスは、商品の新たな注意表記として「必ず屋外で使用、吸い込むと有害、必ずマスクを着用して使用」と記載しており、一部の商品

は絵文字表示、ピクトグラムで注意表記をしております。

(3) 商品の改善として、コロンプスは、内容液、使用ガス、スプレーの機構など安全性の向上を検討しています。

(4) 安全な使用を促す具体的な注意喚起として、日本エアゾール協会は、ホームページに都が作成したリーフレットのリンクを掲載しております。

(5) 消費者への注意喚起・普及啓発として、コロンプスは、ホームページ等に商品の使用方法を説明して、一部の商品については、動画やQRコードを記載しております。また、相談窓口対応、売場の店員などへの指導や、店頭パンフレットやメディア等での啓発を行っております。

13 ページをご覧ください。

(6) 事故情報データの収集と活用として、コロンプスは、関連企業や団体と情報共有をして、対応方法などを模索していると回答がありました。

また、同じく課題として、ノンガスタイプや非フッ素系防水材の開発との回答がございました。

(8) コロナ禍における商品の製造・販売量の変動ですが、コロンプスは、1回目の緊急事態宣言の期間である令和3年の4月、5月は、前年に比べ、売上げが大きく低下しましたが、その後回復しましたが、その後も緊急事態宣言の期間は販売量が減少したとのご回答がございました。

また、スリーエムジャパンイノベーションは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から消費者の外出機会が減少して、それに伴い売上げも低下したとのご回答がございました。

東京都の取組としましては、令和2年度末に事故防止啓発リーフレットを6万部作成し、都内の各区市町村の保健所、消費生活センター、それから小売店を通じて配布しました。

また、消費生活情報誌、ホームページ、SNS等で注意喚起及び普及啓発を行いました。

引き続き事故状況を注視し、継続的な注意喚起を行っていきます。

事務局からの安全対策の報告は以上となります。

○西田会長 事務局、ご説明ありがとうございました。

ただいまの過去テーマの取組状況に関するご説明についてですけれども、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いします。何かございますでしょうか。

ベランダとこの防水スプレーの部分ですね。ございますか。

私から、1点ですけれども、この防水スプレーのほうは、11 ページの図で激減しているけれども、図3です。これは集計方法が変わったということになりますか。

○松田統括課長代理 西田先生のご質問につきましては、11 ページの一番上の行に書きましたように2020年度から、厚生労働省が、防水スプレーの誤使用による事故をこの吸入事故の件数から除外したため、激減をしたように見えるという回答になります。

実は、図4の日本中毒情報センターと厚生労働省の数値は、もともとは同じものです。厚生労働省は、日本中毒情報センターに委託して、相談件数を集めていますが、それを精査した数字が図3となりまして、違うのは、年度と年が違うということと、あとは、先ほど言いました誤使用のものを除いています。もともと2020年、2021年は、先ほど言いましたように、コロナの関係で、相談件数が減っていますので、それにも引きずられていると考えております。

以上です。

○西田会長 ありがとうございます。

そういう意味では、本当に効果が上がっているか、もう少し見てみようということですね。ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。

よろしいですかね。

そうしたら、この過去テーマに関する取組状況はここまでにさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

この過去テーマの取組状況に関しましては、今後もフォローアップしていきたいと思えますので、皆様にもご協力よろしくお願ひします。

それでは、これで、会議は最後になりますので、ここで片岡消費生活部長から、ご挨拶をいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

○片岡消費生活部長 改めまして、消費生活部長の片岡でございます。

今年度、このテーマで本協議会は最後になりますので、私のほうから一言ご挨拶を差し上げたいと思えます。

本協議会は、昨年8月から3回にわたり開催してまいりましたが、この間、西田会長をはじめ、皆様方には、それぞれ専門的なお立場からたくさんの意見を頂戴しまして、誠にありがとうございました。

今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止ということで、オンラインでの開催となり

まして、皆様には、ご不便やご負担をおかけしたと存じますが、この短期間に子供の安全のためのプラットフォームに対しまして、多くのご助言をいただきまして、重ねて御礼を申し上げます。

前回、第2回の協議会でご報告させていただきましたとおり、今年度実施した子供の安全のための情報収集、発信に関するアンケート調査におきまして、このプラットフォームに発信したいと考えている人が50%以上いたということは、期待の大きさを示しているものと考えております。

本日、今回の協議会でもたくさんのご助言をいただきましたので、これからSafe Kids Japan様と東京都は、さらにプラットフォームの細かな手直しを進めまして、スケジュールの説明でもございましたけれども、来月2月に公開させていただきたいと存じます。

また、公開後につきましても、消費者、保護者に対して、様々な媒体を活用しまして、プラットフォームの周知を行ってまいります。

公開直後は、まだ各コンテンツの情報は少ないかもしれないんですけども、消費者、保護者の投稿、それから事業者の参加をさらに進めることで、発信力をさらに充実させまして、子供の事故を着実に減らすためのプラットフォームとして機能するよう、連携してまいります。

皆様方の引き続きのご協力をお願い申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○西田会長 片岡部長、ありがとうございました。

それでは、最後に、会長として、私から一言申し上げたいと思います。

皆様、本当にありがとうございました。この東京都商品等安全対策協議会はずっとやっていますが、今年のテーマは本当に毛色が違い、これまでにはないものです。この商品と安全対策をまさに支えるプラットフォームをつくろうということで、いつもは個別テーマで防水スプレーとか、ベランダとかというのをやっているんですけども、そういうものを支えるプラットフォームということで、非常に新しいチャレンジなテーマだったかなと思います。

これまでも、消費者とか企業をつなぐ、コミュニケーションを取れるようにする必要はあるということは、もういろんな方が繰り返し、繰り返し指摘していますが、正直あんまり成功した事例はないと思っています。

そういう中で、今回は、SNSの活用であるとか、それから、何か抽象的な商品の紹介じゃなくて、具体的な商品の紹介というふうに、従来にない一歩踏み込んだ情報の提供とか、収集ができる面白い仕組みの提案ができたと思っています。

2年前に内閣府から、消費者関連情報の提供の在り方検討ワーキング・グループというのがあって、その報告書が出されました。これからやっぱり消費者行政も特に地方ですけど、お金がないし、人も減るし、行政だけが頑張っているけど駄目じゃないかと、どう民間と協力してやっていくのか、非常にそこは大事だということで、そういう方向に切り替えていきたいと思いますという方向性が出されました。まさに今回は、そのためにやっているわけじゃないんですが、そういう観点でも非常によい提案になっているんじゃないかなというふうに、私自身も非常に期待をしているところです。

これが本当に活用されるプラットフォームになっていくためには、今後も皆様の力を得て、うまく育てていく必要があるかなと思っています。私も早速、インスタは、公開されているので、インスタに登録するようなアナウンスはもう始めています。ぜひ委員の皆様にも、今後機会があるごとに、この普及に、それから改善にご協力いただけると、大変ありがたいと思います。

先ほども安藤委員から、これだったら紹介してもいいなと、ポジティブな意見もいただきましたので、そういう形で、ぜひ紹介していただけるといいかなと思います。

これまで、Safe Kids Japanの方であるとか、それから委員の皆様にも本当にいろいろご尽力いただきまして、深く感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

それでは、以上で今年度の東京都商品等安全対策協議会を終了したいと思います。

皆様、ご参加、それから、これまでのご尽力ありがとうございました。

午後2時57分閉会